

製艦計畫上参考ノ件

過般北海戰ニ於テ英艦「クインメーリー」

自艦ノ砲對南艦「インテグリティ」

及「インクンブル」
(北西艦ノ沈没時明瞭ナリト
右砲對南艦ノ四五分ノ距離ニ沈没セルカ如シ)

ノ如キ堅艦力砲戰ナリ

始右僅ニ五分乃至拾分内外ニ敵彈ヲ為爆破沈没セルノ珍事ハ

一般ニ意外視セラル、處ナルヘシ想フニ右名艦ノ爆破沈没ニ當リ砲塔

及砲塔附近ノ甲板ニ命中セル敵彈ヲ爆裂ニ餘餘力揚彈藥

筒ヲ通シテ大葉陣内ノ大葉ヲ爆裂セシメタルニ因ルニト今ヲ疑

IMPERIAL JAPANESE NAVY.

7、餘地ナリ英海軍將軍連中ニモ「霰射連」ノ急連ヲ欲シ
 換裝室ト火藥庫トヲ最短路ニ依リ直通セシメ此ヲ何等火
 船防禦ノ方法ヲ設ケザリシハ今固ク慘劇ヲ生シタリ主因ナリ今
 後ニ多少霰射連ニテハ犧牲ニ供スル是非揚彈藥筒由ニ

自働防火庫ヲ設置スルカ若クハ他ノ方法ニヨリ火船ヲ防止スルト
 今時ニ砲塔ノ防禦ヲ充テテサレハカラストノ意見ヲ有ス

此ノ多シ高南ク處ニシテ「独飛」ノ射撃ハ誠ニ正確ニ且ツ砲
 一精宜調整リ然ル見事ニシテ「一」ナルホシ「一」拾一彈ノ如ク集

彈レ又遠巨密射ニ於テ高南大ニ命中彈ハ上甲板ヲ貫ス

IMPERIAL JAPANESE NAVY.

テ艦内即チ大揺震ヲ禁ムルニ如ク砲ノ轉動ニ關シテハ當地
海軍ニ於テモ種々ノ批評ヲ果シテ其部果如何ヲ斷言シ得
ザルモ上軍校ニ格下スル命中彈ニ關シテハ擊撃實タル研究ヲ
要ストト思考ス

以上ハ北海軍艦力製砲計畫ニ其ニタル有力ナル教訓ト
認メ其案為中々考

右報告ス